



BEA WebLogic Platform™

WebLogic Platform 7.0 セキュリティの紹介

著作権

Copyright © 2003 BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

限定的権利条項

本ソフトウェアおよびマニュアルは、BEA Systems, Inc. 又は日本ビー・イー・エー・システムズ株式会社（以下、「BEA」といいます）の使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができ、同契約の条項通りにのみ使用またはコピーすることができます。同契約で明示的に許可されている以外の方法で同ソフトウェアをコピーすることは法律に違反します。このマニュアルの一部または全部を、BEA からの書面による事前の同意なしに、複製、複製、翻訳、あるいはいかなる電子媒体または機械可読形式への変換も行うことはできません。

米国政府による使用、複製もしくは開示は、BEA の使用許諾契約、および FAR 52.227-19 の「Commercial Computer Software-Restricted Rights」条項のサブパラグラフ (c)(1)、DFARS 252.227-7013 の「Rights in Technical Data and Computer Software」条項のサブパラグラフ (c)(1)(ii)、NASA FAR 補遺 16-52.227-86 の「Commercial Computer Software--Licensing」条項のサブパラグラフ (d)、もしくはそれらと同等の条項で定める制限の対象となります。

このマニュアルに記載されている内容は予告なく変更されることがあり、また BEA による責務を意味するものではありません。本ソフトウェアおよびマニュアルは「現状のまま」提供され、商品性や特定用途への適合性を始めとする（ただし、これらには限定されない）いかなる種類の保証も与えません。さらに、BEA は、正当性、正確さ、信頼性などについて、本ソフトウェアまたはマニュアルの使用もしくは使用結果に関していかなる確約、保証、あるいは表明も行いません。

商標または登録商標

BEA、Jolt、Tuxedo、WebLogic は BEA Systems, Inc. の登録商標です。BEA Builder、BEA Campaign Manager for WebLogic、BEA eLink、BEA Manager、BEA WebLogic Commerce Server、BEA WebLogic Enterprise、BEA WebLogic Enterprise Platform、BEA WebLogic Express、BEA WebLogic Integration、BEA WebLogic Personalization Server、BEA WebLogic Platform、BEA WebLogic Portal、BEA WebLogic Server、BEA WebLogic Workshop および How Business Becomes E-Business は、BEA Systems, Inc の商標です。

その他の商標はすべて、関係各社がその権利を有します。

WebLogic Platform 7.0 セキュリティの紹介

パート番号	マニュアルの日付	ソフトウェアのバージョン
なし	2003 年 2 月	7.0 (Service Pack 2)

目次

WebLogic Server のセキュリティ コンフィグレーション	2
WebLogic Portal のセキュリティ コンフィグレーション	4
WebLogic Integration のセキュリティ コンフィグレーション	6
同じサーバ上での WebLogic Portal と WebLogic Integration のコンフィグ レーション	8
別のサーバ上での WebLogic Server、Portal、Integration のアプリケーション のコンフィグレーション	8
前リリースからの移行	10
外部 LDAP レルムの使用	11
詳細情報の参照先	12



WebLogic Platform セキュリティの紹介

このマニュアルでは、WebLogic Platform 7.0 環境におけるセキュリティを紹介し、WebLogic Platform のセキュリティ オプションを活用してソリューションを実現する方法を説明します。このマニュアルでは特に、デフォルトのセキュリティ コンフィグレーションで前提とされる事項が、Platform コンポーネントによってどのように異なるかを説明します。また、WebLogic Platform マニュアルセットに記載されている、セキュリティに関する主なトピックの参照先も示します。マニュアルセットは、このリリースに付属のドキュメンテーション CD に収録されています。このマニュアルは、セキュアな WebLogic Platform アプリケーションをデプロイする必要のある管理者の方々を対象としています。

このマニュアルには以下の節があります。

- WebLogic Server のセキュリティ コンフィグレーション
- WebLogic Portal のセキュリティ コンフィグレーション
- WebLogic Integration のセキュリティ コンフィグレーション
- 同じサーバ上での WebLogic Portal と WebLogic Integration のコンフィグレーション
- 別のサーバ上での WebLogic Server、Portal、Integration のアプリケーションのコンフィグレーション
- 前リリースからの移行
- 外部 LDAP レルムの使用
- 詳細情報の参照先

WebLogic Server のセキュリティ コンフィグレーション

『*WebLogic Security の紹介*』では、WebLogic Server セキュリティ サブシステムの新機能および変更された機能を概説します。WebLogic Platform の WebLogic Server コンポーネントだけを使う場合は、必ずこのドキュメントをお読みください。WebLogic Server Administration Console を使用して、ユーザ、グループ、アプリケーション リソース、JDBC リソースなどの特定のリソースに対するセキュリティをコンフィグレーションする方法については、『*WebLogic リソースのセキュリティ*』も参照してください。

BEA の [コンフィグレーション] ウィザードを使用して作成された典型的な WebLogic Server ドメインでは、デフォルトのセキュリティ設定が使われています ([コンフィグレーション] ウィザードの詳細については、『*コンフィグレーション ウィザードの使い方*』を参照)。これらの設定によって、アプリケーションの認証と認証ルールを定義できます。特に、WebLogic Server の新しいセキュリティ サブシステムには、アプリケーションで必要とされる認証や認証情報のレジストリまたはストアとしての役割を果たす組み込み LDAP サーバが装備されています。これは、デフォルト レルムとして File レルムが使われていた前リリースと比べて、大きく変更された点であることにご注意ください。WebLogic Server をすでに使用している場合、この変更からどのような影響を受けるかについては、以下のマニュアルのセキュリティの節を参照してください。

- 『*BEA WebLogic Server FAQ 集*』
- 『*WebLogic Server 7.0 へのアップグレード*』の「*WebLogic Server 6.x からバージョン 7.0 へのアップグレード*」

WebLogic Server 7.0 (Service Pack 2) の新機能は、JDK 1.4 で提供される Java Cryptography Extension (JCE) をサポートしています。Sun Microsystems の Web サイトで説明されているように、JCE は、暗号化、キーの生成と承認、および Message Authentication Code (MAC) の各アルゴリズムに関するフレームワークと実装を提供するパッケージセットです。JCE は、他の認可された暗号作成ライブラリがサービスプロバイダとしてプラグインされるように設計されています。WebLogic Server には JCE プロバイダは含まれていませんが、次の JCE プロバイダをサポートしています。

- JDK 1.4.1 の JDK JCE プロバイダ (SunJCE)

■ nCipher JCE プロバイダ

WebLogic Server での JCE のサポートについては、『*WebLogic Security の管理*』の「Using JCE Providers with WebLogic Server」を参照してください。

WebLogic Server 7.0 では、新しいセキュリティ機能に加えて、WebLogic Server のバージョン 5.1、6.0、および 6.1 で使用できるレルムベースのセキュリティメカニズムもサポートしています。既存のレルムベースのセキュリティ環境を利用する場合は、互換性モードを適切に使用してアプリケーションドメインをコンフィグレーションする必要があります。詳細については、『*WebLogic Security の管理*』の「互換性セキュリティの使い方」を参照してください。この設定は、ドメイン内のすべてのサーバに適用されます。WebLogic Server 7.0 では、混合モード コンフィグレーションを使用できます。混合モードを使うと、新しいセキュリティ機能の一部を利用してレルムベースの認証をコンフィグレーションできます。特にレルムベースの認証に、新しい認証サブシステムを使用できます。

次の表に、WebLogic 7.0 と 6.x の認証レルムでサポートされている認証コンフィグレーションを要約します。

認証	備考
7.0 デフォルト プロバイダ	このコンフィグレーションは完全にサポートされている。
サードパーティ プロバイダの 7.0	このコンフィグレーションのサポートは、サードパーティがグループの解決に WebLogic Server インタフェース (特に <code>weblogic.security.SubjectUtils.isUserInGroup()</code>) を使用している場合に限られる。
6.x (ファイルレルム)	このコンフィグレーションは完全にサポートされているが、EJB とサーブレット認証は WebLogic Server 7.0 認証プロバイダを介して行われる。

WebLogic Server を WebLogic Portal コンポーネントおよび WebLogic Integration コンポーネントと併用する場合でも、WebLogic Portal と WebLogic Integration では WebLogic Server 6.x セキュリティレルムを使用する必要があります。また、互換性モードで実行する必要があります。WebLogic Portal を使う場合、WebLogic Platform のデフォルトは WebLogic Portal REDBMS レルムです。WebLogic Portal と WebLogic Integration アプリケーションに WebLogic Server 7.0 の新しい認証機能を使うこともできます。

WebLogic Server にバンドルされている WebLogic Workshop は、WebLogic Server のデフォルト セキュリティでも動作し、その他の WebLogic Platform コンポーネントの使用に必要な互換性モードでも動作します。ただし、WebLogic Workshop 付属のサンプルでは、デフォルトの LDAP 組み込みサーバが使用されます。Application Integration コントロールは WebLogic Integration のコントロールなので、このコントロールを使う場合はサーバを互換性モードで実行してください。

WebLogic Portal のセキュリティ コンフィグレーション

次のトピックでは、Portal アプリケーションにセキュリティを追加する方法と、WebLogic Portal ベースのドメイン内グループに所属するユーザを管理する方法について説明します。

- WebLogic Portal 『開発者ガイド』の「ポータルへのセキュリティの追加」
- WebLogic Portal 『管理者ガイド』の「ユーザとグループの管理」

WebLogic Platform の WebLogic Portal コンポーネントを使う場合、または WebLogic Portal の前バージョンからアップグレードする場合は、これら 2 つのマニュアルを参照してください。

WebLogic Portal の代表的なインストールには、いくつかのサンプルサーバと、それらのサーバに対してあらかじめコンフィグレーションされたドメインに加えて、WebLogic Platform の WebLogic Server コンポーネントと WebLogic Workshop コンポーネントが用意されています。デフォルトでは、あらかじめコンフィグレーションされたサンプルサーバでは、WebLogic Portal に用意されているカスタム セキュリティ RDBMS レルムが使用されます。このレルムは、ユーザとグループのストアとなります。このレルムのセットアップ方法およびカスタマイズ方法の詳細については、WebLogic Portal 『開発者ガイド』の「ポータルへのセキュリティの追加」を参照してください。WebLogic Portal RDBMS レルムは、WebLogic Server 6.x レルムであり、WebLogic Portal アプリケーションを互換性モードで実行するサーバが必要です。WebLogic Server コンポーネントと WebLogic Workshop コンポーネントの付属サンプルは、WebLogic Portal の

デフォルトのレルムでは動作しない場合があります。これらのサンプルでは、デフォルトの **WebLogic Server** セキュリティ (つまり、組み込み LDAP サーバ) が使われるためです。

WebLogic Portal アプリケーションドメインを作成しているときは、[コンフィグレーション] ウィザードが役立ちます。デフォルトでは、[コンフィグレーション] ウィザードにより、互換性モードおよび **RDBMS** レルムを使用する

WebLogic Portal セキュリティがコンフィグレーションされます。その他の **WebLogic Platform** コンポーネント (**WebLogic Portal**、**WebLogic Integration** など) を使うマルチマシン アプリケーションをコンフィグレーションし、認証に **WebLogic Portal RDBMS** を使う場合は、アプリケーションを実行するすべてのマシンに **WebLogic Portal** をインストールしてください。

WebLogic Portal アプリケーションに新しいユーザとグループを追加するには、**WebLogic Portal** ユーザ管理ツールを使用します。**WebLogic Portal** 『*管理者ガイド*』の「ユーザとグループの管理」を参照してください。これらのツールを使用すれば、ユーザ プロファイルと **WebLogic Portal** アプリケーションを適切に連動できます。

WebLogic Server Administration Console で追加されたユーザが、自動的に **WebLogic Portal** ユーザになるわけではありません。この注意点は、次の節で説明するとおり、**WebLogic Integration** ユーザ管理ツールで追加したユーザまたはグループにもあてはまります。**Portal** ユーザ管理ツールを使用して、これらユーザのプロファイルを調整することをお勧めします。このツールは、**WebLogic Portal** プロファイルが与えられていないユーザに、プロファイルを自動的に添付します。これらのユーザは **WebLogic Server Administrative Console** など他のツールで定義されていることがあります。ユーザに **WebLogic Portal** プロファイルが与えられると、そのユーザは **WebLogic Portal** ユーザになります。

WebLogic Integration のセキュリティ コンフィグレーション

『*WebLogic Integration ソリューションのデプロイメント*』の「WebLogic Integration セキュリティの使い方」では、WebLogic Integration アプリケーションのセキュリティをコンフィグレーションする方法を説明しています。WebLogic Platform の WebLogic Integration コンポーネントを使う場合は、このドキュメントを参照してください。

WebLogic Integration の代表的なインストールには、WebLogic Server コンポーネントと WebLogic Workshop コンポーネントが用意されています。WebLogic Integration アプリケーションドメインを作成する場合は、[コンフィグレーション] ウィザードが役立ちます。デフォルトでは、[コンフィグレーション] ウィザードにより、ユーザとグループのストアに互換性モードおよび WebLogic Server 6.x File レルムを使用するように、WebLogic Integration セキュリティがコンフィグレーションされます。すべての WebLogic Integration サンプルでは File レルムが使用されるので、WebLogic Server と WebLogic Workshop に付属しているサンプルは動作しないことがあります。これらのサンプルは、デフォルトの Server セキュリティ (つまり組み込み LDAP サーバ) の使用を前提としているためです。

ユーザとグループをコンフィグレーションするには、WebLogic Integration 管理ツールを使用します (WebLogic Integration 管理トピックを参照)。特に、次の管理ツールを使用できます。

- **Business Process Management (BPM) セキュリティ サブシステム**では、ユーザ、組織、およびロールの定義と、セキュリティ レルム内グループへのロールのマッピングには、WebLogic Integration Studio ツールが使用されます。WebLogic Administration Console または他のユーザ管理ツール経由で定義されたユーザは、必ずしも BPM ユーザとは限りません。ユーザをその他のツール、たとえば WebLogic Server Administration Console で追加した場合、これらのユーザを wlpUsers グループに明示的に割り当てた後で、Studio を使って各ユーザをロールと組織に追加してください。これはツリービューの [ユーザ] ノードを右クリックし、次に [ユーザを追加] コマンドを選択して実行できます。また、Studio を使って、BPM 内で必要な他のセキュリティ属性を割り当てることもできます。一般に、ワークフローのセキュリティを制御するには Studio を使用してください。詳細については、

『*WebLogic Integration Studio ユーザーズガイド*』の「データの管理」を参照してください。

- **B2B Integration** のセキュリティ ガイド 『*B2B Integration セキュリティの実装*』では、**B2B コンソール**を使用してビジネス プロトコル、会話、トレーディング パートナー、コラボレーション アグリーメントをコンフィグレーションする方法を詳しく説明しています。一般に、**B2B Integration** では、**WebLogic Server Administration Console** を使用して必要なリソース (ユーザ、グループ、ポリシー、SSL スタックなど) のほとんどをコンフィグレーションできます。次に **B2B Console** を使用してトレーディング パートナーのセキュリティをコンフィグレーションします。特に、トレーディング パートナーを **WebLogic Server** のユーザにマップし、その他のセキュリティ属性を割り当てるには、**B2B Console** を使用します。**B2B** コンポーネントを使用する場合は、**WebLogic Server SSL** 設定がサーバ全体に適用されます。たとえば、相互認証を要求するように **B2B** コンポーネントがコンフィグレーションされているサーバ上でこのアプリケーションを実行する場合、相互認証も **WebLogic Portal** アプリケーションに適用されます。『*B2B Integration セキュリティの実装*』の「キーストアのコンフィグレーション」の指示に従って、**WebLogic Keystore** プロバイダをコンフィグレーションする必要もあります。**WebLogic Keystore** プロバイダは、キーをストアするためのキーストア、およびトレーディング パートナーを認証する証明書を登録するために使用します。**B2B** ドメインにサーバアプリケーションをデプロイする前に、キーストアを **WebLogic Server Administration Console** からコンフィグレーションする必要があります。
- **Application Integration** コンポーネントを使用してエンタープライズ情報システム (EIS) にアクセスするアプリケーションでは、システムにアクセスするために、ログイン名とパスワードなどの認証資格を求められる場合があります。『*Application Integration ユーザーズガイド*』の「アプリケーションビューの定義」と「カスタム コードの作成によるアプリケーションビューの使用方法」では、デプロイされたアプリケーションビューのセキュリティ設定をコンフィグレーションする方法について説明しています。

WebLogic Integration アプリケーションをすでにコンフィグレーションしたサーバに **WebLogic Portal** アプリケーションを追加する場合は、**WebLogic Portal RDBMS** レルムはプライマリ レルムとなります。このレルムは **File** レルムと連動できませんが、両方のレルムのユーザとグループをレプリケートすることはお勧めできません。

同じサーバ上での WebLogic Portal と WebLogic Integration のコンフィグレーション

同じサーバ上のすべての WebLogic Platform コンポーネントを使用するアプリケーションをコンフィグレーションできます。この場合、WebLogic Portal RDBMS レルムがデフォルトのセキュリティレルムとなり、サーバは互換性モードでコンフィグレーションされます。WebLogic Portal RDBMS レルムは、WebLogic Integration に必要なあらかじめ定義されたすべてのデータに、有効な状態で付属しています。WebLogic Server Administration Console または WebLogic Integration Studio を使って新しいユーザを定義する場合、これらのユーザは RDBMS レルムにストアされます。

WebLogic Platform コンポーネントによって定義されるユーザプロファイルが適切に有効となるように、原則として、それぞれの WebLogic Platform コンポーネントに用意されているユーザ管理ツールを使用してください。ある管理ツールから別の管理ツールに切り替えると、再認証を要求される場合があります。

WebLogic Integration B2B コンポーネントを使う場合、相互認証に SSL が使用されます。この設定は WebLogic Server 全体に適用されます。したがって、連動して使用する WebLogic Platform の他のコンポーネントにも影響する場合があります。

別のサーバ上での WebLogic Server、Portal、Integration のアプリケーションのコンフィグレーション

WebLogic Platform コンポーネントのアプリケーションを別のサーバ上にコンフィグレーションすることもあります。たとえば、WebLogic Integration、Workshop、および EJB のアプリケーションからは独立して、WebLogic Portal アプリケーションを管理する場合があります。WebLogic Portal アプリケーションを独自

のサーバでコンフィグレーションすることによって、顧客の要求に合わせてすばやく調整する一方で、ユーザ自身のアプリケーションとも今までどおり通信できます。

レルム コンフィグレーションはドメイン全体に影響するので、このコンフィグレーションはアプリケーション ドメインを構成する一連のサーバ全体に適用されます。**WebLogic Portal** とデフォルトの **RDBMS** レルムを同じアプリケーションで使う場合は、**WebLogic Portal** ソフトウェアをインストールし、アプリケーションによって使われる各マシン上に **RDBMS** レルムをコンフィグレーションすることをお勧めします。

WebLogic Platform コンポーネントは複数のドメインにコンフィグレーションできます。既存のアプリケーションを **WebLogic Platform** にすばやく移行するには、アプリケーションを複数のドメインでコンフィグレーションするのが最もよいでしょう。たとえば、**WebLogic Integration** アプリケーションは、アプリケーションに関連付けられている古い **File** レルムでコンフィグレーションされたユーザ、グループなどのデータを使い続けることができます。ただし、このマルチドメイン コンフィグレーションは慎重に行う必要があります。どの **Platform** コンポーネントを使用するかによって、使用されるセキュリティストア (レルム) が異なるためです。

複数の **WebLogic Platform** コンポーネントをそれぞれ個別のドメインでコンフィグレーションする場合、ドメイン全体でエンド ユーザのシングルサインオンを行うかどうかを検討する必要があります。**WebLogic Platform** では、エンドユーザ サインオンを実現するために、**WebLogic Server**、**Workshop**、**Portal**、および **Integration** のアプリケーション間でのユーザ ID の伝播がサポートされています。ただし、そのユーザ情報がこれらのアプリケーション間で正しく移植されていることが条件です。**WebLogic Platform** では、信頼のある関係、つまり 1 つのドメインのプリンシパルが別のドメインのプリンシパルとして受け入れられる関係は、1 つのドメインの `SecurityConfigurationMBean` (`config.xml` ファイルを参照) の `Credential` 属性が、もう一方のドメインの

`SecurityConfigurationMBean` の `Credential` 属性と一致する場合にセットアップされます。`Credential` 属性が設定されていない場合に管理サーバを初めて起動すると、管理サーバにより、この属性が設定されていないと認識され、ランダムな資格が作成されます。この資格は、そのドメインで作成されたプリンシパルへの署名に使われます。同じドメイン内の他のサーバによって管理サーバから資格が取り出され、その結果、ドメイン内で信頼関係が確立されます。このトピックの詳細については、『*WebLogic Security の紹介*』を参照してください。

前リリースからの移行

WebLogic Server 6.x 環境から WebLogic Server 7.0 環境に移行する場合は、*『WebLogic Server 6.x からバージョン 7.0 へのアップグレード』*のセキュリティの章をお読みください。基本的に、すべてのユーザとグループを新しいセキュリティ (BEA dev2dev Online からダウンロードできるツールを使用できます) に移行することも、既存のレルムを使い続けることもできます。後者を採用する場合は、サーバを互換性モードでコンフィグレーションします。

WebLogic Portal 4.0 から WebLogic Portal 7.0 に移行する場合、WebLogic Portal 4.0 RDBMS レルムにすでに定義されているユーザ、グループ、エンタイトルメントをすべて再利用できます。カスタムレルムを使用している場合、そのレルムを使い続けることができます。ただし、カスタムレルムを WebLogic Integration と連動して使用する場合は、*『WebLogic Integration の起動、停止およびカスタマイズ』*の「セキュリティレルムのガイドライン」にある「WebLogic Integration のカスタマイズ」の節の手順を行ってください。WebLogic Server 7.0 の新しい認証機能は、WebLogic Platform に含まれている WebLogic Portal コンポーネントでは使用できません。WebLogic Server 6.x レルムだけを使用できます。また、ドメインは互換性モードでコンフィグレーションする必要があります。

WebLogic Integration 2.1 から WebLogic Integration 7.0 に移行する場合、古い File レルムを使うことができます。ただし、WebLogic Server を互換性モードでコンフィグレーションする必要があります。WebLogic Portal を同じアプリケーションドメインで使う場合は、WebLogic Portal RDBMS レルムがデフォルトレルムになります。ユーザを WebLogic Portal RDBMS レルムに移行 (たとえばユーザを WebLogic Integration Studio で追加) してください。また、WebLogic Portal アプリケーションを別のドメインでコンフィグレーションして、古い File レルムを使い続けることもできます。WebLogic Server 7.0 の新しい認証機能は、WebLogic Platform に含まれている WebLogic Integration では使用できません。WebLogic Server 6.x レルムだけを使用できます。また、ドメインは互換性モードでコンフィグレーションする必要があります。

外部 LDAP レルムの使用

WebLogic Platform では、サードパーティの LDAP 製品を利用できます。サードパーティの LDAP 製品を使うには、WebLogic Server 6.x LDAP レルムを使用して、ドメインを互換性モードでコンフィグレーションします。LDAP レルムは読み込み専用です。そのため、LDAP レルムを使って特にユーザ、グループなどの管理タスクを行う場合は、サードパーティ ツールを使った補足的な介入が必要な場合があります。

次のガイドでは、LDAP レルムのコンフィグレーション方法について詳しく説明しています。

- WebLogic Server のマニュアル『*WebLogic Security の管理*』の「互換性セキュリティの使い方」では、互換性セキュリティの使い方を説明しています。特に、WebLogic Server 7.0 で外部 LDAP 製品を使う方法を説明した「LDAP セキュリティ レルムのコンフィグレーション」を参照してください。
- 外部 LDAP 製品で WebLogic Integration をコンフィグレーションする手順は、『*WebLogic Integration の起動、停止およびカスタマイズ*』の「WebLogic Integration のカスタマイズ」にある「BPM セキュリティ モデルについて」に記載されています。特に、これらのドキュメントに定義されている、WebLogic Integration とサンプルに必要な特定のユーザとグループをコンフィグレーションする必要があります。特に、トピック「カスタム セキュリティ レルムのコンフィグレーション」を参照してください。このトピックでは、外部 LDAP 製品を WebLogic Integration に追加する基本手順について説明しています。
- WebLogic Portal 『*開発者ガイド*』の「ポータルへのセキュリティの追加」では、WebLogic Portal のレルムについて詳しく説明しています。WebLogic Portal 『*管理者ガイド*』の「ユーザとグループの管理」では、WebLogic Portal アプリケーションに必要なグループについて説明しています。これらのグループは、ユーザの LDAP レルムで定義する必要があります。

WebLogic Platform でカスタムレルムを使うこともできます。上記のドキュメントでは、カスタムレルムをセットアップする方法について詳しく説明しています。

詳細情報の参照先

以下のガイドでは、それぞれの WebLogic コンポーネントで使われるセキュリティ属性をコンフィグレーションする方法について詳しく説明しています。

- WebLogic Platform、『*BEA WebLogic Platform のインストール*』
- WebLogic Platform、『*コンフィグレーション ウィザードの使い方*』
- WebLogic Server、『*WebLogic Security の紹介*』
- WebLogic Server、『*WebLogic Security の管理*』
- WebLogic Server、『*WebLogic Security の管理*』の「互換性セキュリティの使い方」
- WebLogic Server、『*BEA WebLogic Server FAQ 集*』
- WebLogic Server、『*WebLogic Server 7.0 へのアップグレード*』の「WebLogic Server 6.x からバージョン 7.0 へのアップグレード」
- WebLogic Portal、WebLogic Portal 『*開発者ガイド*』の「ポータルへのセキュリティの追加」
- WebLogic Portal、WebLogic Portal 『*管理者ガイド*』の「ユーザとグループの管理」
- WebLogic Integration、『*WebLogic Integration ソリューションのデプロイメント*』の「WebLogic Integration セキュリティの使い方」
- WebLogic Integration 管理トピック
- WebLogic Integration、『*B2B Integration セキュリティの実装*』
- WebLogic Integration、『*BEA WebLogic Integration 移行ガイド*』
- WebLogic Integration、『*Application Integration ユーザーズガイド*』の「アプリケーション ビューの定義」
- WebLogic Integration、『*Application Integration ユーザーズガイド*』の「カスタム コードの作成によるアプリケーション ビューの使用方法」
- WebLogic Workshop、『*セキュリティ*』